

福島県

石川町

いしかわんだふる

子ども子育て★応援宣言の町

How
Wonderful!
ISHIKAWA

町勢要覧 2020

Ishikawa Town Guide

いしかわんだふる

大地が育んだ鉱石の神秘
誇り高い歴史

絢爛たる川辺の桜並木
豊かに湧きいでる温泉
祭り、そして人――

石川町は

「不思議で」

「素晴らしく」

「すてき」

「わんだふる！」

な魅力であふれています

いしかわんだふるな

暮らし（LIFE＝らいふ）と

遺産（LEGACY＝れがしい）を

私たちは未来につないでいきます

福島県石川町プロフィール

福島県南部・石川郡の中心都市で、総面積は115.71km²。

阿武隈高地の西に位置し、豊かな自然に恵まれ、町の中心を今出川・北須川が流れる。

日本三大ペグマタイト鉱物産地として知られ、約150種類の鉱物を確認している。

歴史は平安時代末期に源氏の豪族石川有光公が移り住み、石川地方の開発と支配を行うことに始まったと言われている。その後、変遷を経て1955年3月に石川町、沢田村、山橋村、中谷村、母畑村、野木沢村の6町村が合併し現在の石川町が誕生した。

現在の人口は約1万5千人。

国道118号とJR水郡線が南北に走り、福島空港に近接している。町内に咲き誇る桜と母畑、猫啼、片倉、塩ノ沢の4つの温泉が観光の目玉。石川地方の産業・文化の中心地として発展している。



「あいさつ」

本町は、阿武隈の強い大地と緑に包まれた自然豊かな地域です。高速道路の要とも言える福島空港や東北新幹線、東北自動車道、あぶくま高原道路、磐越自動車道との利便性に優れた開発ポテンシャルの高い地域で、町中を流れる今出川、北須川沿いの桜並木が「桜

谷」と称されるような見事な景観を呈しています。

今、日本は人口減少の時代を迎えており、本町も平成29年4月に過疎地域の指定を受けました。過疎化にストップをかけるためにも、安心して子育てができる環境づくりや医療体制及び住政策の充実などとともに、道の駅も視野に入れた農業、商業など地場産業の発展と6次化を推進し、交流人口の増加を図りながら、産業の再生など地域の活性化をすることで、人口減少に歯止めをかけるべく、町民の皆様とともに考えながら、全力でまちづくりに取り組んでいます。当要覧を通し、本町をご理解いただくとともに、さらなる町勢発展にお力添えいただければ幸いです。

石川町長 塩田 金次郎

Cherry blossoms, hot springs, mineral ores, history, festivals, and people. Our town, Ishikawa, is full of wonderful things. We are working to pass down our heritage to future generations.



いしかわんだふる ★らいふ
 How Wonderful! ISHIKAWA
LIFE
 ともに力を合わせて
 つくるまち

自分たちの地域は 自分たちで――
 石川町は 行政・住民及び企業がひとつになり
 ともに力を合わせて取り組むまちづくりを進めています
 学生や町内6地区の自治センターが
 力を最大限に発揮し
 行政・住民及び企業と協働で 地域の課題に向き合っています

町民参加の拠点づくり
 町民がまちづくりについて考
 えるワークショップ。自ら考
 え、持ち寄った声はまちづく
 りに活かされています。

Based on the idea that we are in charge of our own regions, the municipal government in Ishikawa joins forces with residents and business enterprises for urban development. They hold gatherings in municipal community centers and work together in order to resolve regional issues.



地域自治協議会
 石川、沢田、山橋、中谷、
 母畑、野木沢の6地区
 の自治センターと地域
 住民が「地区まちづく
 り委員会」を組織。地
 区計画を策定し事業に
 取り組んでいます。



まちなかプレイスメイキング
 地元商店や住民、学生などと連携し、まちなかににぎわいの空間を再生します。
 「きらら夏祭り」では高校生がアイデアを出し合い、おもてなしをします。



Ishikawa is blessed with abundant natural resources such as forests, land, and water. People have coexisted in harmony with nature, benefitting greatly from it. Our goal is to create a vibrant town that residents love and feel proud of living in.



観光まちづくりの推進
温泉や桜、歴史、文化遺産、スポーツ活動などを観光産業資源と捉え、各団体の連携による観光まちづくりを実践します。

豊かな森、土、水に
恵まれた石川町
人々はこの自然とともに
命を育んできました
多様な資源を活かして
ふるさとを誇り、
愛する心を育てる
人が集い、働き、
にぎわうまちを築く
わたしたちが目指すのは
活力にあふれた石川町です

いしかわんだふる ★らいふ
How Wonderful! ISHIKAWA
LIFE
にぎわいと活気の
あふれるまち



成長産業分野の企業誘致、企業支援
企業立地の支援制度を活用した企業誘致
や、既存の中小企業への販路拡大、販売
促進を支援することで、雇用の拡大を図
ります。



商店街活性化の促進
コミュニティの場としての個性的で魅力
ある商店街と、商業活性化の一体的な取
り組みを進めます。

農業体験

小学生が、土と食物と命の
有機的な結びつきを体験か
ら学んでいます。



石川町の未来を創造する

石川町は平成31年度から「共に創る、幸せ実現のまち」を将来像とした「石川町第6次総合計画」に基づき、まちづくりを進めていきます。

社会経済の変化と併せ、町民の行政に対するニーズはますます多様化・高度化していく中、持続可能な社会を維持し、町民満足度を高めるためには、これまで以上に長期的なまちづくりの視点に立った重点的・効率的な行政運営が求められます。そこで、本町は人口減少社会における量から質への転換、行政と町民が一体となった「共創」によるまちづくりの方向性を示し、これまでの取組みの成果、協働による地域自治の精神を引き継ぎながら、行政と町民とが相互に連携し、総合的に施策を推進していきます。

本町の現状と課題をしっかりと認識し、各種施策を着実に推進することにより、持続可能な活力ある地域の形成を目指します。

基本目標 1
健康で元気に暮らせるまち
(保健・福祉・医療)

子供から高齢者までのすべての世代が、性や障がいに関わらず、共に生きる安心安全な地域をめざして、一人ひとりの人権を守り、保健、福祉、医療の向上に努めます。



基本目標 2
活力ある産業を形成するまち
(産業・観光)

新たな担い手の確保及び経営所得の向上をめざすとともに、消費者のニーズに柔軟に対応できる産業の育成を推進し、活気あふれるまちづくりをめざします。



基本目標 3
豊かな心・町民文化を育む
まち(教育・文化・スポーツ)

歴史、文化、自然などに触れ、親しみ、生涯を通じて学び、新しい時代や社会の変化の中で創造性を発揮し、互いに助け合い協力し合う心豊かな人材の育成を図ります。



基本目標 5
都市機能が充実したまち
(生活基盤)

緑豊かな自然環境と、限りある資源を活かした都市機能の推進を図り、機能的で快適な生活環境づくりをめざします。



基本目標 4
安全で住みよいまち
(防災・生活環境)

安心・安全で快適に暮らせる環境づくりを進め、人にも、地球にもやさしいまちづくりをめざします。



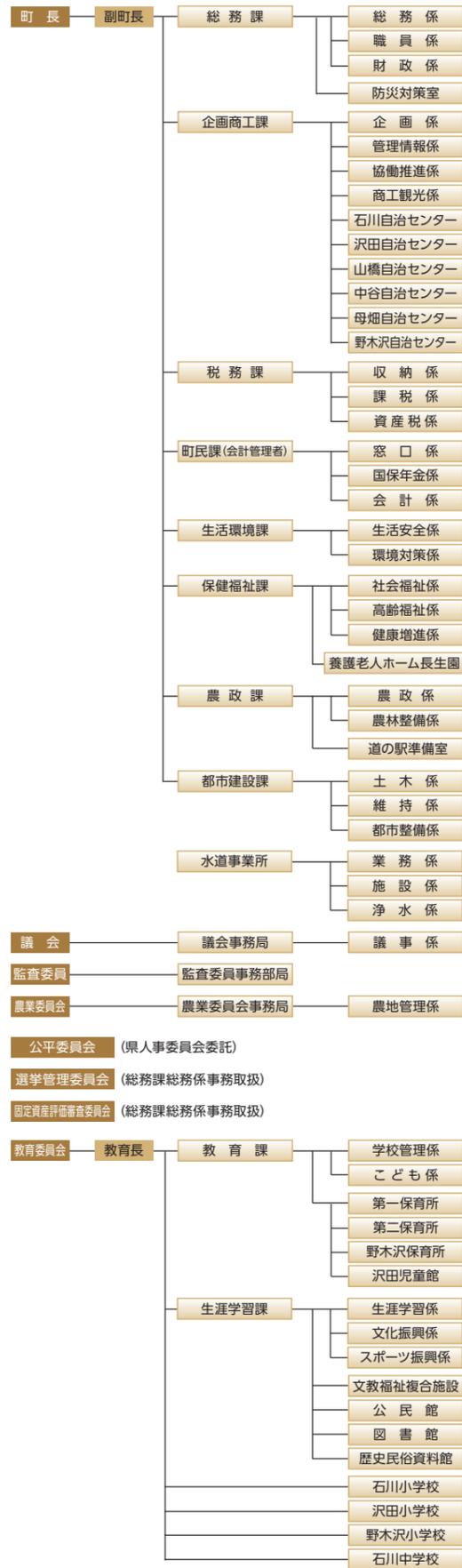
基本目標 6
共に創るまち
(地方自治・行政運営)

町民と行政が、それぞれの立場で役割と責任を担い、郷土への愛着や誇りを実感できる地域づくりを進めます。



組織図

令和2年4月1日現在



議会
 町民の意思をダイレクトに町政へ。
 全町民の代表として公正な議会運営を遂行

町議会は、年4回の定期例会および必要に応じて臨時会が開かれます。町民を代表する議員が町政の運営について審議し、町政に関わる施策等を議決する機関です。現在、14人の議員で構成されています。

議員は、町政に対するさまざまな声に耳を傾け、それを公正な立場で審議し、より良いまちを築くべく、施策に反映させるための議会運営を行っています。

議場に集う町議会議員

いしかわんだふる ★ らいふ

How Wonderful! ISHIKAWA

LIFE

町民の信頼に
 応えるまち

石川町民憲章、町章、町の花・木・鳥

石川町民憲章

- 一 自然と文化を愛し、豊かな町をつくりましょう。
- 一 親切と勤労をむねとし、住みよい町をつくりましょう。
- 一 歴史と未来をみつめ、誇りある町をつくりましょう。

昭和49年9月25日制定

町章



石川町の頭文字「イ」と「シ」を組み合わせて図案化したもので、飛躍発展と平和を象徴しています。

昭和41年1月12日制定



昭和49年3月25日制定



昭和49年3月25日制定



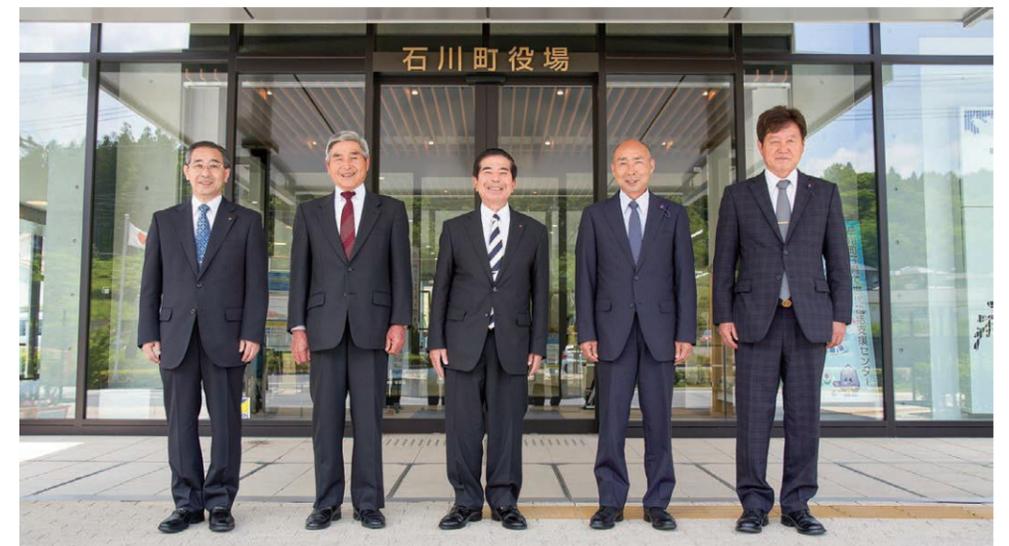
昭和49年3月25日制定

町の鳥「うぐいす」

町の木「杉」

町の花「桜」

役場庁舎の前で左から
 小玉 陽彦 教育長
 二瓶 義雄 副町長
 塩田 金次郎 町長
 草野 伝明 議長
 近内 雅洋 副議長



学校法人石川高等学校



「行学一如」を基本理念に

明治25年に創立された、福島県最古の私立学校です。中高一貫課程、特別進学課程、普通課程Ⅰ～Ⅲコースを展開しています。学力と人間力を兼ね備えた、社会で活躍できるリーダーを育てるため「行学一如」—学んで実践してこそ学問—を基本理念に掲げています。

文武両道を謳うにふさわしく、36種もの部活動があります。甲子園に出場経験のある野球部、全国選抜大会やインターハイに多数出場しているハンドボール部、国体や各種大会で入賞を果たす自転車競技部、全国高校駅伝で入賞する実力を持つ陸上競技部など、多くの生徒が全国規模の大会に出場し、日本一に輝くなど目覚ましい活躍を見せています。

福島県立石川高等学校



地域ぐるみでキャリア育成を支援

大正12年創立の、90年以上の伝統を持つ学校です。県内でいち早く「朝の読書」を取り入れ、始業前から学習に臨む態勢を整えています。習熟度別に分かれた少人数授業や、2年次から4つのコース(キャリアグループ、発展学習グループ、学力向上グループ、技能向上グループ)選択により、自分の進路目標に合わせた学習ができます。

地域に貢献できる人材育成のため、石川町や企業と連携して進めている、就業体験を柱とした「いしかわWORK&LIFE教育」(=写真右)も特徴です。地域ぐるみで生徒のキャリア育成を支援しています。小規模校ではありますが、生徒一人ひとりが主役となれる学校です。

Elementary, junior high,
and high schools

石川町の学校紹介

Schools in Ishikawa Town

いしかわんだふる★らいふ
How Wonderful! ISHIKAWA
LIFE
豊かな心と文化を
育むまち

石川町立石川小学校



課外活動で好成績

子どもたちは明るく素直で元気にあいさつし、何事にも一生懸命に取り組んでいます。課外活動が盛んで、陸上部、自転車部、合唱部、合奏部、科学部、水泳部が各種大会等で素晴らしい成績を収めています。

石川町立沢田小学校



学年を超えて仲良く

全校児童67名の小さな学校です。縦割り班の活動が多く、学年を超えて仲良しです。休み時間には、いろいろな学年の友達と鬼ごっこをして楽しく過ごしています。ノーチャイムで生活しているので、時間を守り自主的に行動しています。

石川町立野木沢小学校



地域とともにある学校

「地域とともにある学校」を合言葉に「リング栽培」「稲作体験」「清流探検」「地域探検」などの体験学習が盛んです。地域の方々は「おらが学校」の意識が高く協力的で、子どもたちは見守られながら学習しています。

Attention 石川町の駅伝

福島県内外の大会で優秀な成績を収めている石川町の駅伝。学校法人石川高等学校陸上競技部の松田和宏顧問と、石川町立石川中学校陸上部の近藤仁一顧問にその強さの秘密をうかがいました。



全国高等学校駅伝競走大会で3位入賞を果たした学校法人石川高等学校陸上競技部
2018年12月23日

長距離走は継続することで力がつく競技です。けがをさせないことを第一に考えています。精神的な強さも必要なので、自分に厳しくすること、あいさつや礼儀など人間的な部分も指導しています。石川町には練習場所や寮など環境を整えていただき、住民のみなさんの声援も温かく感謝しています。町の協力なくして、ここまで強くはなれませんでした。陸上競技部には、全国大会のその先を見据えて県外から来る生徒も多くいます。第一線の水準を保



学校法人石川高等学校
陸上競技部顧問
松田和宏教諭

目標とされるチームに



石川町立石川中学校
陸上部顧問
近藤仁一教諭

全国レベルの力つきたい

しながら、目標とされるチームとされるよう努力し続けています。

中学生は心身共に成長する時期なので、生活リズムを整えてきちんと食事をすることが基本です。練習に前向きに取り組むため、生徒の意識改革を大事にしています。先輩の実例を話したり、少しずつ成功体験を積ませたりして、自信と希望を持たせます。ひとりの成長が周りの刺激にもなるのです。駅伝は一本のタスキをつなぐ競技ですから、責任感も養われます。チームとしての一体感を高めて、全国レベルの力をつけたいですね。



部活動の練習に励む町立石川中学校生

学校法人石川義塾中学校



文武両道を目指して

「文武両道」を目指して、新種目を設置するなど部活動の拡充を図っています。6年間の中高一貫教育を通し、著しい進学実績を上げています。成功するために必要な能力を「7つの習慣」にまとめ、実践するプログラムを取り入れています。

石川町立石川中学校



充実した教育環境

「歌声の響く学校」「活きた授業のある学校」「活動に歓声のある学校」のスローガンを掲げ教育しています。400mトラックや専用の野球場、6面のテニスコート、町施設のトレーニングコースや武道館、温水プールなどが隣接し、教育環境が充実しています。

クリスタル
パーク・石川

総合運動公園

クリスタルパーク・石川は、町民のスポーツ、レクリエーション活動を支える緑豊かな公共施設です。

総合体育館と多目的広場はスポーツ施設として、石と芝の公園「クリスタル広場」は各種イベントや町民の憩いの広場として親しまれています。



総合体育館



クリスタル広場

Why do people live in Ishikawa? Maybe because Ishikawa is their hometown, because of its unique charm, or because they are chasing their dreams here. There are many people who live fantastic lives in their ideal place, Ishikawa. In this section we'd like to introduce eight residents who live wonderful lives in Ishikawa.



あなたがそこに住むのはなぜですか
生まれ育った土地だから でしょうか
ほかにはない魅力があるから
それとも
なにかを追いかけているから

生きるため一番居心地のいい場所に
根を張る植物のように
このまちに生き
輝いている人がいます
ひとりひとりが
花を咲かせる
わんだふるな
八つの石川ものがたり
そのフィールドをたずねました

★
人としてのあり方が基本
日本の強みを伸ばしたい

★
第二次
産業

寺島誠人さんが経営する株式会社東鋼は、石川町の工場で切削工具・医療機器を製造しています。

「人がまじめで、業績も上がっている。ここに工場を作って正解でした」。精密機器の製造機械は繊細です。地盤が強く、地震の影響を受けにくい石川町は最高の立地と話します。「基礎が大切なのは人間も同じ。社員にはあ

いさつや身だしなみ、整理整頓など、人としてのあり方を重視した教育をしています」。製造業として、福島県が進めているロボットや医療、宇宙産業にも貢献したいという寺島さん。日本の強みであるモノづくりの技術をこの地で伸ばしたいと、意気込みを語りま



Profile
東京都葛飾区出身。東京都文京区在住。神奈川大学経済学部卒。1983年株式会社東鋼入社、2007年社長就任。座右の銘は「常在戦場」。株式会社東鋼は1937年創業の切削工具・医療機器メーカー。本社は東京。

とうこう 株式会社 東鋼 代表取締役社長
てらしま まこと 寺島 誠人さん

★
第一次
産業

薬物野菜の生産で自社ブランドを確立した御光福園芸。二代目の吉田隆さんは就任後、新たにイチゴの生産に乗り出しました。環境制御装置を導入し「あきひめ」「紅ほっぺ」など5品種を生産しています。温度、湿度、二酸化炭素量などをコンピュータが管理す

ることにより、少人数で効率良く、質の高い作物の育成が可能です。「新技術により若者や他業種の方も取り組みやすくなり、就農の間口が広がりました。あらゆる農産物の生産者と連携しながら、地域の一次産業を盛り上げたいです」と目標を話しました。

★
新技術が
生産者の
輪を元気に
農業を



Profile
石川町出身。学校法人石川高等学校卒業後、町外の企業に就職。家業を手伝う中で「手を掛けた分おいしさに反映される」と農業の面白さに目覚め、就農を決意した。2017年12月社長就任。

こうりく 有限会社 御光福園芸 代表取締役社長
よしだ たかし 吉田 隆さん (右)

母畑温泉・八幡屋は、全国的にも高い評価を得ている温泉旅館です。30代の若さで会社を率いる渡邊武嗣さんは、従業員と同じ目線に立つことを信条に働いています。「私は上からの命令で人を動かすタイプではないんです。従業員が自分で考え、納得して働くことを大切にしています。マ

ニアルだからではなく、おもてなしをしたという心からの思いが、自然と笑顔や接客に表れると考えます。町の歴史や文化をうまく利用しながら、宿泊客が町に流れる仕組みを作れたら」。旅館業ができる地域貢献への夢も膨らみます。

★
心からの自然な
笑顔や接客こそ
おもてなしです

★
第三次
産業



Profile
石川町出身。旅館を経営する両親を見ながら育ち、サービス業をやるなら一度は世界を見たいと、中学卒業後渡米。ネバダ州立大学ラスベガス校ホテル学部で研修を積む。2016年9月、八幡屋社長就任。

わたなべ たけし 渡邊 武嗣さん (左)



6次化

★
人との絆は宝物
「お客様目線」がうちの
プライドです

夫婦で果樹農家を営む郷美枝子さん。県から指導農業者の認定を受けたことで農業者仲間ができ、仲間からのアドバイスが6次化商品開発のきっかけになりました。人とつながることで生まれるアイデアや発想は、宝だと感じています。「手塩にかけて育てた果物を、お客様と顔を

Profile
平田村出身。結婚を機に石川町で生活、夫婦で農園を始める。直売所運営、ドライフルーツやジュースなど加工品の開発に奮闘する。「すかがわ・石川地方めぐみの会」に所属、農業の魅力PRしている。

見合わせて手渡したいのです」。直売所を始めたのも、人との絆を大切にしたいとの思いからでした。「果物づくりは、実はとても手間のかかる仕事。でもお客様においしく食べていただくための努力は惜しみません」。生産者としてのプライドが、豊かな実りの原点です。

Profile
郷美枝子さん



まちづくり

★
地域のお母さんが支える
まちのにぎわいと
高齢者の安心

有賀正子さんが代表理事の加工所「食彩あすか」は地域の台所。「食卓に美味しさと笑顔」をモットーに、地元で採れた米や野菜を使い、手作りにこだわったお弁当やお惣菜を提供しています。中谷地区まちづくり委員会が、地域活性化活動を発展させるため加工

Profile
石川町出身。県立石川高等学校卒業後、事務職や接客業を経験。中谷地区まちづくり委員会加工部一員として、地域貢献活動に参加。現在「食彩あすか」会長として12名の仲間とともに活動中。

所を設置。安全でリーズナブルな食の提供をはじめ、高齢者宅への配食サービスにも取り組んでいます。「地域のお母さんが収入を得て働き、高齢者の見守りにも一役買っています」。今後は地域の長寿会と連携して、ニーズに合った見守りの形を探ります。

Profile
NPO法人 食彩あすか 代表理事
ありがまさこ 有賀正子さん



子育て

★
子どもは植物と同じ
根つこが良ければ
まっすぐ育ちます

14人の子どもたちを預かる大竹ヤエ子さん。人としての基本を身につけて社会に送り出したい。そんな思いで保育にあたっていきます。「植物と同じで、根つこが良ければ子どももまっすぐ育ちます」。看護師の経験から、子どもの変化に敏感です。毎朝の検温や、希望すれば薬も飲ませる

Profile
大竹さん ● 鮫川村出身。看護師歴30年以上。2005年に知人から認可外のやどかり保育園を譲り受け、2015年小規模認可を受ける。
水野さん ● 石川町出身。保育歴10年以上で、3人の子どものお母さん。

やどかり保育園 園長
おおたけ 大竹ヤエ子さん (右)

保育士
みずの 水野 梢さん (左)



まちづくり

★
組織力を生かした
地域づくりで
子の代も豊かな町に

岡部弘幸さんはカーディーラーで店長を務める傍ら、いわき石川青年会議所(JC)の会員としてまちづくりに取り組んでいます。青少年育成や町の発展を目的にワークショップ、イベントなどを企画しています。活動の源は、子の代にも活気ある町であってほしい

Profile
石川町出身。駒澤大学経済学部卒。大学卒業後、営業職を経て2013年入社。2014年いわき石川青年会議所に入会。2020年現在、理事長を務める。家庭では2人の娘のお父さん。

マツダオートザム石川 店長
おかべ ひろゆき 岡部弘幸さん



石川町で共に走り
支えてくれた人への思いが
勝利への使命感に



スポーツ

Profile	石川町出身。学校法人石川高等学校、東洋大学経済学部卒業。1999年ユニカミノルタ入社、2005年母校学法石川高校に教師として赴任。いわき総合高等学校の柏原竜二氏に注目し、その才能を見いだすなど指導力を評価され、2009年4月東洋大学陸上競技部男子長距離部門監督に就任。
東洋大学陸上競技部 男子長距離部門監督	
さか い としゆき 酒井 俊幸さん	

東洋大学で駅伝の指導にあたる酒井俊幸さんは、石川町生まれ。監督就任以来、東洋大学の鉄紺色のユニフォームは常に大会の先頭争いを演じます。箱根駅伝ではチームを3度優勝に導きました(※)。

東洋大学陸上競技部監督のオファーを受け、母校・学校法人石川高等学校教員時代のことでした。高校

の教え子たちに対する責任感から一度は断つたものの、後任候補に松田和宏氏(15歳)が浮上したことで「この人になら任せられる」と、愛する生徒たちを託しました。

ふるさと石川町で共に走った人、支え、背中を押してくれた人たちへの思いが、今も勝利への使命感につながっています。

「大学は教育の現場です。好成績を残すことと同時に、競技を通じて人間性の構築を目指しています」。好きな言葉は「克己心」と語るように、ストイックに「結果」と「育成」を追い求め、チームに

飛躍的な成長をもたらしました。

石川町への思いをうかがうと「子どもたちの可能性に期待します。才能は不平等でも、時間やチャンスは平等です。謙虚に挑戦して、故郷で活躍できる人材に成長し、まちが活気づくことを望みます」。



東洋大学で陸上競技部員を指導する酒井監督(中央)

酒井監督が導いた東洋大学陸上競技部の主な実績 ※2020年6月現在

- 東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)
優勝3回 準優勝5回 第3位2回
- 全国大学駅伝対校選手権大会
優勝1回 準優勝4回 第3位2回
- 出雲全日本大学選抜駅伝競走(出雲駅伝)
優勝1回 準優勝3回 第3位2回



学法石川高校の教え子と共に出場したふくしま駅伝(前列右端)
2008年11月16日



箱根駅伝で2度目の総合優勝を果たし、胴上げされる酒井俊幸監督
2012年1月3日

人物事典

いしかわまち



石川義塾創立者

嘉種 嘉種
もり 森

文久2年12月23日、白河城下会津町に生まれる。16歳で水戸の自彊舎に学び、教員の道へ。明治25年、石川義塾(現学校法人石川高等学校)を創立。明治40年石川中学校設立。昭和9年、脳卒中に倒れ9月4日永眠。

森嘉種は、白河藩主阿部氏に仕える武家に生まれました。学問の道を一心不乱に進み、18歳で教員になりました。明治24年、石川小学校へ訓導として赴任します。「進学のために恵まれない石川地方の青少年のため、教育の場を作りたい」。同じ思いを持つ石都々

人に尽くし 町の発展を支え
その名を残した偉人たち
石川町が誇る「人物」の
あゆみを紹介します

古和気神社宮司であり、初代石川町長の吉田光一と寄付金集めに奔走し、明治25年6月5日、石川義塾(現学校法人石川高等学校)を創設しました。

明治28年、最大の理解者である吉田光一が急死してからも、嘉種の勉学への情熱は止むことはありませんでした。29年には、難関といわれる中等教員検定試験、いわゆる文検の漢文科に合格のちに6科目に合格しますが、これは石川義塾の中学校昇格のための準備であったとみられます。

文部次官・沢柳政太郎に対する嘉種の直訴が通じ、明治40年、義塾は私立石川中学校として認可されました。

鉱物研究の先駆者

嘉種は、明治36年には東京帝大地質学教室に学び、私立石川中学校に鉱物学者を招き講習会を開くなど、熱心に鉱物研究に取り組みました。嘉種の研究により新たな鉱物が発見され、また鉱物産地として石川町の名が知られるようになりました。

名誉町民第一号



医学博士
添田 百枝

石川町湯郷渡字米子平出身。昭和11年帝国女子医学薬学専門学校医学科(現東邦大学医学科)卒業。のち東京帝国大学医学部付属伝染病研究所(現東大医科学研究所)研究員となる。平成9年永眠。

添田百枝はトリコマイシン(牛の流産予防や女性特有の疾病に効能のある抗カビ、抗酵母、抗原虫剤)の開発や、ガン研究で世界的に名を博しました。昭和30年にトリコマイシン製造法で総理大臣賞を、昭和45年にはマリナマイシン(抗ガン剤)の研究開発で吉岡弥生賞を受賞するなど、世界の医学の進歩発展に貢献しました。

昭和58年、町の名誉町民条例の制定(昭和36年)以降、初の名誉町民章を受けました。

石川町 大地教育の母



教育者
三森たか子

大正10年東京出身。神奈川県女子師範学校本科2部卒業。東京大空襲で罹災し、父の実家のある石川町に疎開する。教員として理科を教える傍ら、鉱物研究に尽力。晩年は文化財保護のため、町に多額の寄付を行う。平成27年永眠。

三森たか子は石川町で教員として働いていた時、石川の石の魅力に気づきました。大学教授から教員を受けながら熱心に調査研究を続け、得た知識を子供たちに還元すべく、幾冊もの教育用副読本を自費出版しました。「子供と共に自然を学びたい」。自らも探究心を失うことなく、石川の大地の魅力を伝え続けました。

町の文化財保護審議会や鉱物保護収集委員会の委員を務め、地域文化の振興に寄与したとして文部科学省などから表彰されました。

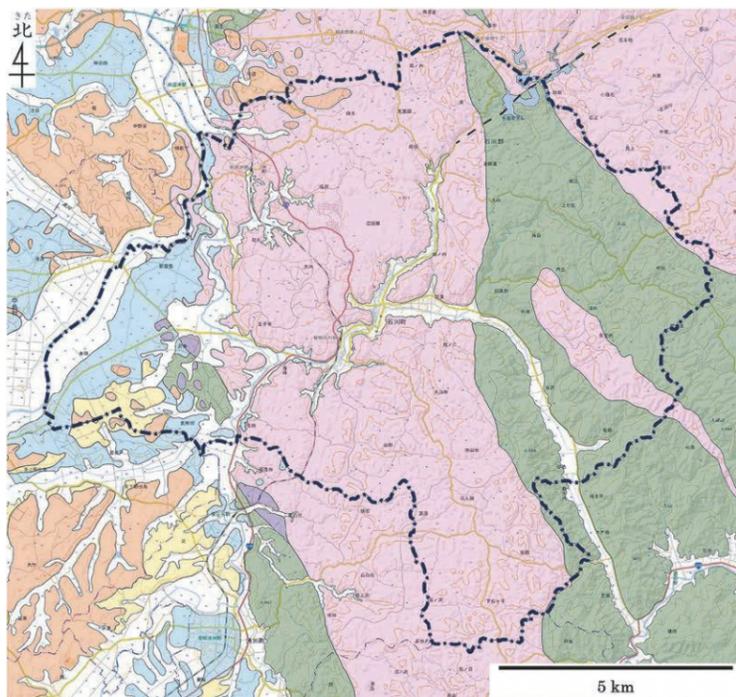
安全で堅固な地盤



本町がある阿武隈地域は、表層地質の大半が変成岩や花崗岩類の堅固な地盤からなり、また活断層も少ないことから、地震に対する安全性は極めて高い地域とされています。過去には首都機能の移転候補地にも挙げられました。

2016年に発表された「47都道府県いい地盤ランキング」(地盤ネット総合研究所)では、阿武隈高地を有する福島県が全国第3位に選ばれました。

石川町の地質図



凡例

沖積層	堆積岩のなかま	かんらん岩・蛇紋岩
段丘堆積物	花崗岩のなかま	断層と考えられる構造
デイサイト質凝灰岩	変成岩のなかま	

鉱物

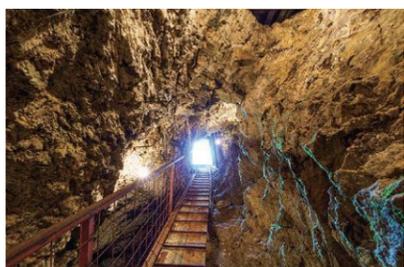
いしかわんだふる★れがしい



石川町中野産水晶

Ishikawa is known as one of Japan's three major mineral-producing areas. Our mineral ores are globally famous among researchers. These mineral ores are works of art created by the earth over countless years.

日本三大ペグマタイト鉱物産地として名高い石川町。大地の下に眠るロマンは、いま世界からも注目されています。悠久の時を経て、地球のエネルギーが生み出した結晶。個性あふれる天然の芸術です。



和久観音山鉱山跡 第1鉱体入り口

※管理者に問い合わせのうえ、事前予約で見学可能

山々の歴史を後世に伝える取り組みも行われています。

保存されている和久観音山鉱山跡

石川町の鉱山は全て閉山しました。現在は和久観音山鉱山跡を整備・保存し一般公開するなど、石川町の鉱山の歴史を後世に伝える取り組みも行われています。

阿武隈高地が生んだ神秘

石川町は福島県の中通り南部、阿武隈高地の西側に位置します。町の東部には変成岩、中央部には花崗岩、西部には阿武隈川によって運ばれた砂や砂利で作られた地層が分布しています。そのため、一つの町の中で多種多様な岩石を見ることができ、まさに「地質の宝庫」です。

日本三大ペグマタイト鉱物産地

石川町(石川町およびその周辺地域)のペグマタイトは、国内最大級の水晶やレアメタル、レアアースを含む希元素鉱物を多量に産出したことで有名です。岐阜県苗木地方、滋賀県田上地方と並んで、「日本三大ペグマタイト鉱物産地」のひとつに数えられています。

ペグマタイトとは

大きな石英や長石から構成される花崗岩(御影石)のなかままで、巨晶花崗岩とも呼ばれます。



役場庁舎前のペグマタイト

代表的なペグマタイト鉱物



国内最大級のカリ長石の結晶



石川石 (石川町で発見された新種の鉱物)



白雲母



緑柱石



鉄磐柘榴石 (ガーネット)



国内最大級の電気石(トルマリン)の結晶群 (県指定天然記念物「和久観音山鉱山跡」)

文化財としての石川の鉱物と岩石

- 【県指定天然記念物】
- 石川のペグマタイト鉱物と和久観音山鉱床
- 球状花崗岩

このほか、石川町の鉱物・岩石は、日本地質学会から「県の石」に選定されました。

- 県の鉱物 ■ペグマタイト鉱物/主要産地: 石川地方
- 県の岩石 ■片麻岩/主要産地: 阿武隈高地

鉱物研究の先駆者



森 嘉種



三森たか子

石川から産出される鉱物を発見・研究し世に知らしめた学術石川高等学校創設者の森嘉種。理科教育をとおして石川の鉱物の魅力を児童生徒に伝え続けた三森たか子。先人の偉業が「鉱物のまち」の礎として今に息づいています。

食

くだもの



目にも鮮やかな、真っ赤なリンゴ。糖度の高さが自慢のモモ。甘酸っぱくてキュートなサクランボに、みずみずしいナシ。石川町には果物王国福島の代表選手がそろい踏みです。

Ishikawa offers mental and physical relaxation in ancient hot springs. Enjoy the best hot springs in the Tohoku region and cordial hospitality at Japanese inns in Ishikawa!



母畑温泉

母畑湖の近くに位置し、五軒の温泉旅館が湯煙をあげる母畑温泉郷。開湯はおよそ900年前の八幡太郎義家・奥州征伐の時代。傷を負った兵馬を谷川の清水で洗ったところ快癒したため、母衣と旗を奉納しました。この「母衣旗」が「母畑」に転化したといわれています。



猫啼温泉

今出川のほとりに二軒が並ぶ、平安時代の歌人・和泉式部ゆかりの温泉。石川の地に生まれ育った和泉式部が13歳で京都に上洛する際、残してきた愛猫が彼女を偲んで3日3晩啼きつづけたとか。このお湯で猫の痔が治ったというユニークな伝説も残っています。



片倉温泉

薬王山のふもと、今出川沿いにたたずむ一軒宿で、旧片倉財閥の別荘を受け継いだものです。付近一帯を片倉製糸が保養所としていたことから「片倉温泉」と呼ばれるようになりました。弘法大師が源泉を掘り当てたとの言い伝えもあります。3000坪の和庭園が見事です。



塩ノ沢温泉

標高500メートルの山々に囲まれた、静かで素朴な一軒宿。古くから里山の湯治場として人々に親しまれてきました。周辺の新緑と紅葉が美しく、森のさえずりに耳を傾けながら、ゆるやかな時間の流れを感じられます。豊かな自然と家庭的なもてなしが自慢です。



いしかわんだふる★れがしい
温泉

今出川、北須川の清らかな流れに沿うように古来より変わらず湧きつづける大地の恵みは訪れる人の心と体を癒やしてきました。山々に囲まれた多彩な湯宿で東北随一の泉質をご堪能ください。

いしかわんだふる★癒しよりごちそう

食 いしかわ牛

お米で育てた いしかわ牛を、お米で育てたビーフシチューで味噌カレーで

いしかわ牛は石川郡内でのみ肥育され、日本食肉格付協会より評価を受けた黒毛和牛です。石川町内の認定店でご賞味ください。いしかわ牛商品もお土産に人気です。

東北有数のラジウム温泉

福島県中通り南部、阿武隈高地の西部に位置する石川町は、変成岩と花崗岩類のふたつの異なる岩石が接するところにあります。そのため大変複雑な地盤構造を持ち、世界的にも珍しい放射性鉱物を数多く産出してきました。

この特異な地質が、東北でも有数のラジウム含有量を誇る「母畑・石

川温泉郷」を生み出したのです。

ラジウム温泉は通常「弱放射能泉」と表示され、微量の放射能が含まれて地上に湧き出しています。皮膚や呼吸器からラドン(ラジウムの気体)を吸収することで、鎮静効果や循環器障害の改善、血圧低下などの効果があるといわれています。

この地の温泉に二、三日入ると体調が良くなるとして「母畑の三日湯」という言葉が昔から伝えられ、湯治場としても親しまれてきました。

We are passing down our stories to future generations, especially about great people in history who are related to Ishikawa. They are our predecessors who played major roles in their eras.

歴史

いしかわんだふる★れがしい

自由民権運動の中心人物

河野広中 こうのひろなか



1849（嘉永2）年三春町生まれ。行政官を務める中、自由民権運動に開眼し、1878（明治11）年、石陽社を設立。東北の民権運動を先導します。福島事件では内乱陰謀容疑で検挙されますが、その後の恩赦で出獄。のち、衆議院議長を務めるなど中央政界でも活躍しました。

石川町の初代町長

吉田光一 よしだこういち



1845（弘化2）年、石川の神官の家に生まれました。石陽社の実質的な指導者として活躍、県会議員、初代石川町長を歴任します。1892（明治25）年には森嘉種と共に石川義塾（現・学法石川高校）を設立。石川町の初代町長も務めました。

石陽社の若手活動家

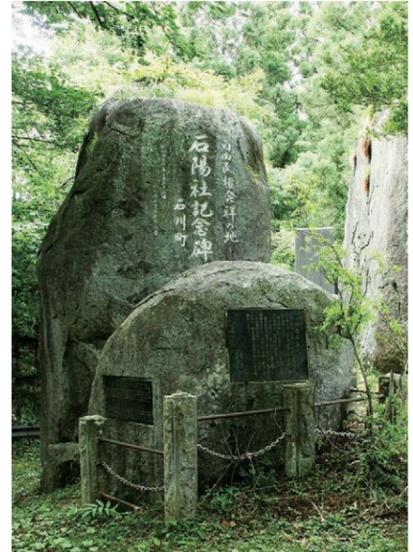
鈴木重謙 すずきじゅうけん



1858（安政5）年生まれ、大庄屋鈴木家の養子。石陽社の若手活動家として精力的に活動し、政治のあり方を大衆に訴え続けました。福島事件では重謙も拘引されています。のちに県議員を経て石川町長になりました。

時代を築いてきた
先人たちの熱い思い
いで湯に潜む歌人の伝説
悲しみを乗り越え光る 名工の技
歴史という まちが刻んできた物語を
私たちは後世に語り継ぎます

自由民権史跡
鈴木重謙門 重謙屋敷
磐前県・福島県石川会所



石陽社記念碑
「自由の伸張、権利の拡充、社会の改良」を目的とした政治結社の地として伝承された石陽社の地と歴史の誇りを後世に伝えるため、記念碑が建てられました

自由民権運動発祥の地

1875（明治8）年、東日本における自由民権運動の起源とされる政治結社「有志会議」（後の石陽社）がここ石川の地に誕生しました。危機感を持った政府の厳しい弾圧にも屈することなく、人民主権を求める人々の思いは各地へ広がり、「民主主義」という新たな時代を切り拓きました。

重謙屋敷復原事業

石川町中心部にある「鈴木家薬医門」は、大庄屋鈴木家屋敷（通称「重謙屋敷」）の表門です。この屋敷は、明治7年には行政事務所「石川会所」として、また東日本初の自由民権結社「有志会議」（石陽社）の中心として、近代石川の歴史に大きな足跡を残しました。平成29年度に主屋の復原工事が行われ、石川地方の自由民権運動を学ぶことができる「郷土教育の場」、誰もが集い、交流活動ができるまちなかの「にぎわいの場」として整備しました。

食

いしかわんだふる★歴史より実り

リンゴ

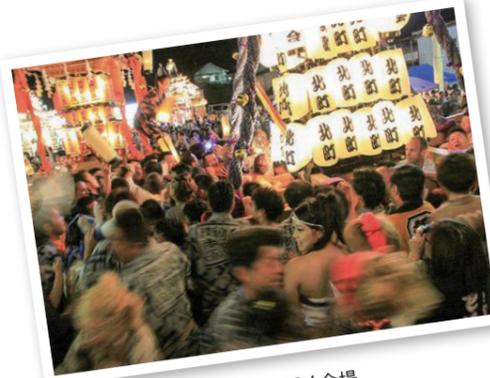


石川町の「リンゴ」は品質の高さからブランドを確立した逸品。石川の秋の味覚の象徴です。果実のおいしさを生かした多彩な6次化商品も魅力的。

Young people shout vigorously and carry shiny portable shrines in a dynamic way, illuminating the night of the festival. Residents and tourists join together, wishing for good harvests and their families' safety.

祭り

いしかわんだふる★
れがしい



御神輿パレードの熱気に湧く会場

950年の歴史を誇るこの祭礼は、毎年9月に2日間にわたり開催されます。御神体が納められた神社御神輿が八幡山山頂にある神社から御飯屋へお下がりになり、奉納受けを行います。各町内の旗場を渡御し、夕刻、神社へお上がりになると、大通りでは各町の神輿による御神輿パレードが始まり、祭りは最高潮に達します。

石都々古和氣神社例大祭

夜空を熱する若いかけ声
色鮮やかで個性的な神輿の明かりが
祭りの夜を揺らします
五穀豊穡と家内安全への願いを込めて
この日、まちは一つになります

食

いしかわんだふる★祭りよりお土産

こんにやく

地元こんにやく粉100%と天然水を使用し、通常の3倍以上の時間をかけ丁寧に作ったこんにやくです。福島県観光連盟が「優良おみやげ品」として推奨しています。



八槻市のにぎわいは晩秋の風物詩



八槻市(やつきいち)

11月に五穀豊穡を祈願する近津神社秋季例大祭に合わせて立つ市人々が柚子や生姜などを買い求め、冬に備えます。

石川町立歴史民俗資料館

石川地方から産出した鉱物や岩石を中心に、約700点を展示しています。「鉱物のまち 石川」ならではの鉱山で用いられた工具、わら細工など祖先の生活をしのばせる貴重な民俗資料・文化遺産も展示されています。



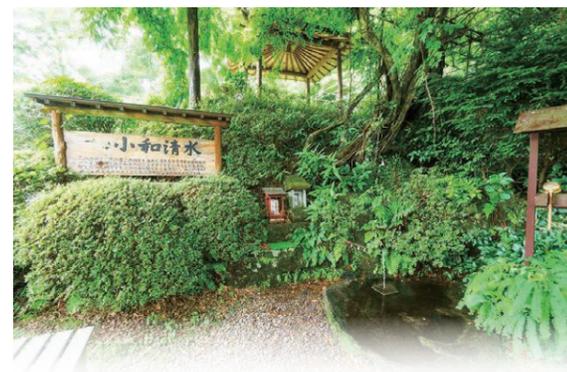
石川町立歴史民俗資料館内



町指定文化財 石都々古和氣神社の狛犬



名工・小林和平が彫り上げた彫刻狛犬の傑作「石都々古和氣神社の狛犬」は、石都々古和氣神社参道口に奉納されています。力強く後ろ足を蹴り上げ躍動する姿が印象的です。



小和清水(こわしみず)

石川町曲木地区にある湧き水。平安時代の代表的な女流歌人、「和泉式部」(玉世姫)がこの地に生を受け、産湯に使われた場所と伝えられています。現在では、子育て・子宝の霊水として親しまれ、「福島の水30選」にも選ばれています。



櫛上げの石(くしあげのいし)

和泉式部が清水のほとりで髪をすいたとき、櫛を置いたのがこの「櫛上げの石」といわれています。今も猫啼温泉「井筒屋」の敷地内に残されています。



石都々古和氣神社(いわつつこわげじんじゃ)延喜式内社で、陸奥国の一之宮に数えられ、古くから地域信仰の柱となっています。



小林和平

左の狛犬に寄り添う三頭の子獅子は、いずれも和平の亡くなった三人の子供を象徴しているといわれています。悲劇を乗り越えて生まれた作品が人々の心を打ちます。

Along rivers running through the center of Ishikawa, 2,000 cherry trees bloom beautifully, coloring the spring scenery. Ishikawa is known as one of the best cherry blossom-viewing locations in Fukushima Prefecture.



高田桜
樹齢約500年のエドヒガンザクラ



桜並木の下を走る学生の姿は、春の風物詩



春の石川町は桜色のグラデーションに包まれます



夜桜のライトアップ



桜まつり



町の中心部を流れる
今出川と北須川沿いには
二千本の桜が咲き誇り
石川の春を彩ります
県内有数の桜の名所として愛される
石川町は「さくらの郷」です

桜を愉しむ多彩な催し

毎年4月には「石川桜まつり」を開催します。ステージイベントのほか、物産店やグルメフェアなど多くの町民が訪れ、にぎわいを見せられています。町内の桜スポットを周遊する無料バスも運行。好評を博しています。

夜桜のライトアップでは、川面に映る明かりが、あさひ公園周辺を幻想的な光景に変身させます。

桜と川が織りなす「いしかわ桜谷」

ゆるやかな川の流に寄り添い、こぼれんばかりに花を咲かせる桜並木。幾重にも連なる姿は「いしかわ桜谷」と呼ばれ、人々の心を惹きつけます。石川で見られる主なサクラはソメイヨシノ、ベニシダレ、カンザン、エドヒガンなど。今出川・北須川の桜は「福島遺産百選」に認定されています。

いしかわんだふる★れがしい
桜

食

いしかわんだふる★花より宴会 きららの初恋

石川町産の酒造好適米「美山錦」と、阿武隈山系の伏流水を使って醸し出された純米酒。全国新酒鑑評会9年連続金賞受賞蔵による、自然と対峙した地酒造りにこだわった一品です。



特別純米酒

1955年

- 昭和30年 3月 石川町・沢田村・山橋村・中谷村・母畑村・野木沢村の1町5カ村が合併し、新石川町が誕生
- 昭和31年 8月 高田桜が福島県天然記念物に指定
- 昭和33年 9月 役場庁舎が完成(字下泉地内)
- 昭和34年 4月 桜が丘学園が開園
- 7月 養護老人ホームを開設

1960年

- 昭和35年 10月 石川町商工会が設立
- 昭和37年 9月 緑安全靴石川工場誘致(誘致企業第1号)
- 昭和38年 6月 農協合併、新石川町農協が発足
- 8月 町民プールが完成(字関根地内)
- 12月 3町衛生処理組合施設が完成
- 1月 町章制定
- 9月 町体育館と中央公民館が完成
- 昭和42年 9月 町議会議員定数30名から20名に改正
- 昭和43年 6月 石川地方衛生処理組合が発足

1970年

- 昭和45年 1月 鳥内遺跡発掘調査開始
- 4月 石川文化幼稚園が開園
- 昭和46年 5月 全国優良町として表彰
- 昭和47年 3月 町民グラウンドが完成(双里字川向地内)
- 7月 千五沢ダム堰堤が完成
- 11月 公民館が全国優良公民館表彰
- 昭和48年 3月 石川町振興計画策定
- 10月 石川地方火葬場が完成(字長久保地内)
- 3月 武道館が完成(字南町地内)
- 昭和49年 2月 国道118号石川バイパス開通
- 3月 町の「花・木・鳥」を制定
- 歴史民俗資料館が完成
- 須賀川地方広域消防組合石川分署(現石川消防署)庁舎が完成

1980年

- 昭和49年 9月 石川町町民憲章制定
- 10月 町民の歌発表会
- 11月 社会福祉協議会が全国表彰
- 昭和50年 4月 老人福祉センター完成
- 8月 母畑レークサイドセンター完成
- 昭和51年 3月 学法石川高校野球部、春の選抜甲子園初出場(夏の大会も初出場)
- 昭和52年 4月 統合石川中学校が開校
- 昭和53年 1月 広報行政無線運用開始
- 4月 宮城県角田市と姉妹都市調印
- 昭和54年 11月 野木沢小学校の新校舎が完成
- 昭和55年 4月 県立石川養護学校(現県立石川支援学校)が開校
- 8月 学法石川高校自転車競技部がインターハイ総合優勝
- 12月 第1保育所の新園舎が完成
- 昭和56年 6月 石川更生園(現石川共生園)が開園
- 昭和57年 4月 B&G石川海洋センター体育館とプールが完成
- 7月 勤労青少年ホームが完成
- 11月 初の名誉町民に添田百枝医学博士
- 12月 石川スケート場オープン
- 昭和58年 2月 石川町新総合計画策定
- 12月 東京いわき石川会を結成
- 昭和59年 8月 桑沢秋雄さん自転車競技で町内初のオリンピック出場
- 昭和60年 3月 新ゴミ焼却施設が完成
- 8月 石川吹奏楽団、労働大臣賞「褒章」受賞
- 12月 名誉町民渋谷直蔵さん逝去
- 昭和61年 2月 県立石川高校の新校舎が完成
- 5月 石川共同福祉施設が完成
- 昭和62年 4月 石川勤労者体育センター(現石川町武道館)が完成
- 8月 ふくしま国体ハンドボール競技場に石川町が決定
- 10月 鳥内工業団地内企業が操業開始
- 昭和63年 3月 石川町消防団が消防庁長官表彰旗を受賞
- 5月 沢田小学校の新校舎が完成
- 平成元年 2月 町消防団が日本消防協会「最高荣誉賞」を受賞
- 6月 西部工業団地が完成
- 平成2年 10月 石川警察署の新庁舎が完成
- 11月 石川公を偲び、追遠400年記念事業を開催
- 平成3年 1月 石川小学校が合奏日本一に

2000年

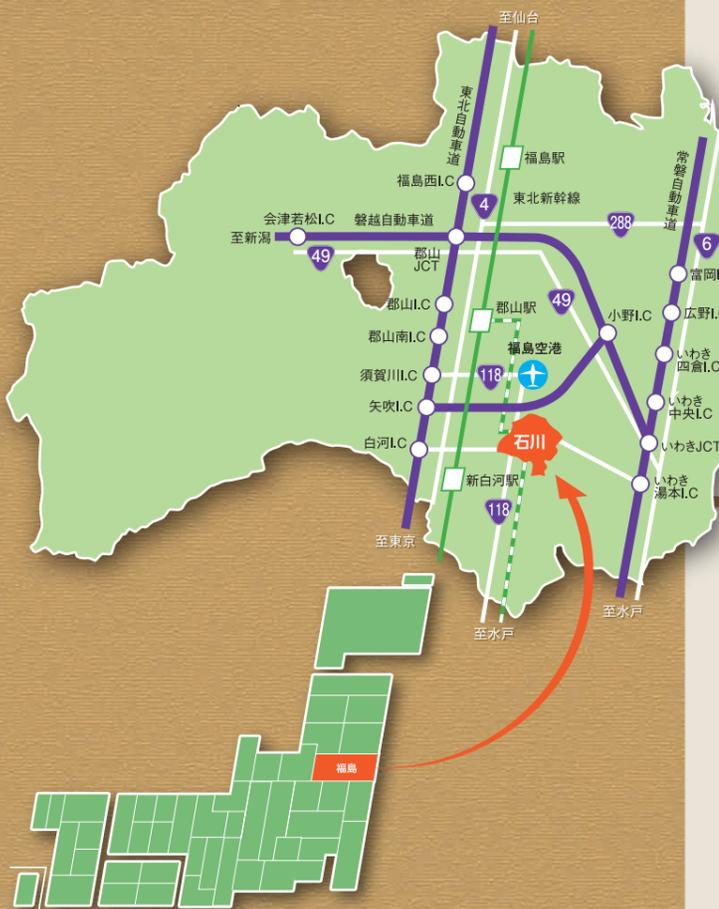
- 平成3年 6月 野木沢小学校が「よい歯の学校」特別栄誉賞を受賞
- 9月 県内初、五人の女性消防団員誕生
- 11月 石川更生園がユネスコ美術展で特別金賞を受賞
- 石川町にオーケストラが誕生(石川フィルハーモニック)
- 平成4年 2月 第2保育所の新園舎が完成
- 10月 学法石川高校が創立100周年
- 平成5年 2月 石川町第3次総合計画策定
- 3月 石川町総合体育館が完成
- 平成6年 3月 総合運動公園「クリスタルパーク石川」に多目的広場が完成
- 4月 特別養護老人ホーム「さくら荘」が完成
- 9月 石川中学校がオーストラリア・ウエストウオールセントハイスクールと姉妹校を締結
- 12月 石川中学校が全国駅伝大会で第3位入賞
- 平成7年 4月 石川のペグマタイト鉱物が県の天然記念物に指定
- 10月 ふくしま国体・ハンドボール競技を開催
- 平成8年 1月 東京都荒川区と「非常災害時の相互応援協定」を締結
- 2月 新・し尿処理施設、屋内ゲートボール場と集会場完成
- 3月 野木沢小学校屋内運動場完成
- 4月 在宅介護支援センター完成
- 南町の親水公園の名称「あさひ公園」に決定
- 7月 沢田地区簡易水道事業開始
- 平成9年 1月 石川小学校合奏部TBSこども音楽コンクール全国大会で2位
- 8月 各都市計画区域の広域化により「石川都市計画区域」の決定
- 平成10年 3月 石川勤労者総合スポーツ施設「屋内温水プール」(現石川町温水プール)完成
- 4月 石川町保健センター設置
- 8月 大雨災害、初の対策本部設置(被害箇所282件)
- 平成11年 11月 石川町ホームページ開設
- 平成12年 4月 介護保険制度スタート
- 老人デイサービスセンター「長生園」開所
- 平成13年 5月 石川町第4次総合計画「キラリ21プラン」策定
- 平成14年 10月 第15回全国健康福祉祭ねりんピック・ゲートボール交流大会開催
- きらりクリーンセンター完成
- 平成15年 9月 町議会議員定数を20名から18名に改正
- 平成16年 6月 中田地区が「里地里山30選」に選定
- 平成17年 4月 保育所再編により、3保育所・1児童館に移行

2010年

- 平成18年 3月 第1回春の全国中学生ハンドボール選手権大会に石川中女子ハンドボール部が出場
- 4月 婚姻届受理証明の交付開始
- 平成19年 3月 山橋地区簡易水道事業開始
- 4月 副町長制度新設により助役・収入役を廃止
- 9月 町議会議員定数を18名から14名に改正
- 10月 「福島遺産百選」に今出川・北須川の桜が認定
- 平成20年 4月 学校法人石川義塾中学校が開校
- 平成21年 3月 石川町第5次総合計画策定
- 4月 各地区に自治センターが設立
- 石川地方火葬場「いしかわ清苑」が供用開始
- 8月 あぶくま高原道路石川母畑インターチェンジが開設
- 平成22年 8月 石川小学校自転車部が第45回交通安全子供自転車全国大会において団体の部準優勝
- 10月 石川町商工会設立50周年
- 平成23年 3月 藤沢工業用地が完成
- 東北地方太平洋沖地震による東日本大震災が発生
- 東京電力福島第一原子力発電所事故による罹災者支援を開始
- 平成24年 8月 第47回交通安全子供自転車全国大会で石川小自転車部が全国第3位入賞
- 10月 県立石川高校創立90周年
- 平成26年 4月 石川町トレーニングロードが完成(双里、形見地内)
- 平成27年 4月 新石川小学校・新石川中学校が開校
- 7月 合併60周年記念式典及び公共事業総合落成式開催
- 平成28年 5月 石川町のペグマタイト鉱物が「県の石」に認定
- 7月 石川町合同庁舎の供用開始
- 9月 石川町役場新庁舎の供用開始・沢田地区自治協議会が設立
- 11月 ふくしま駅伝大会町の部初優勝
- 平成29年 4月 過疎地域自立促進特別措置法による過疎地域に指定
- 10月 石川町・福島県中地方総合防災訓練を実施
- 平成30年 11月 第30回ふくしま駅伝で町の部3連覇、総合準優勝
- 12月 全国高校駅伝に学法石川高校男女が出場。男子は3位入賞
- 平成31年 4月 文教福祉複合施設(モトガツコ)開設
- 10月 台風19号により大きな被害を受ける
- 令和2年 3月 「和久観音山ペグマタイト鉱床」が県天然記念物に認定
- 4月 新型コロナウイルス感染症対策本部設置

Access Information

✈️	札幌 (新千歳)	75分	福島空港	車で20分	石川町	
	大阪 (伊丹)	65分				
🚆	●東北新幹線	80分	新白河駅	車で40分	石川町	
	東京駅			バスで60分	石川町	
🚗	●JR水郡線	140分	磐城石川駅	車で55分	石川町	
	水戸駅					50分
	郡山駅					
🚗	●東北自動車道	白河IC	50分	石川町		
		須賀川IC	30分			
	●あぶくま高原道路	石川母畑IC	15分			
	●常磐自動車道	いわき湯本IC	60分			
	●一般道	郡山市	車で55分			
	水戸市	車で150分				



石川町の ISHIKAWA MAP 地図



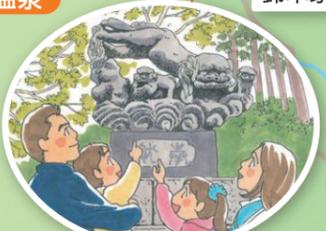
石都々古和気神社



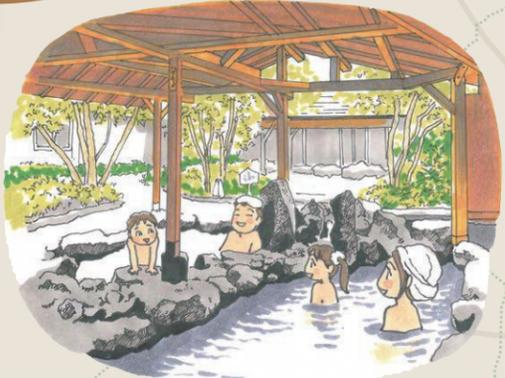
石都々古和気神社



クリスタルパーク石川



石都々古和気神社の狛犬



母畑温泉・猫啼温泉・片倉温泉・塩ノ沢温泉

How wonderful!
ISHIKAWA
MAP





石川町
町勢要覧
2020

発行日 ● 令和2年6月
発行 ● 石川町

〒963-7893 福島県石川郡石川町字長久保185-4
TEL 0247-26-2111 (代表)
URL : <http://www.town.ishikawa.fukushima.jp/>

写真協力 福島民報社

